

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和6年1月12日

釧路市議会議長 畑中 優周 様

会派名 市民連合議員団

代表者名 岡田 遼



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	岡田 遼、板谷 昌慶、木村 勇太
出張先	根室市
期間	令和6年1月9日(1日間)
用務	北海道市議会議長会道東支部議員研修会出席
調査(研修)結果等の概要	別紙参照
備考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

市民連合議員団

□ 北海道根室市：北海道立北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」

講話内容『ふるさとの四島（しま）への思いと北方領土の現状』

講師：得能 宏 氏（公益社団法人 千島齒舞諸島居住者連盟）

（報告担当：木村 勇太）

市民連合議員団は、2024年1月25日（木）午後13時より、北海道立北方四島交流センター「ニ・ホ・ロ」で行われました北海道市議会議長会道東支部議員研修会に参加致しました。

講師の得能宏氏（公益社団法人 千島齒舞諸島居住者連盟）は、色丹島出身の方で、北方領土の語り部として活動されている方です。元島民として、島での暮らしやソ連兵が攻めて



きた当時の状況、その後、どのように北海道へ渡ってきたのかといった現地での体験談についてお話頂きました。

当時は、島で約17,000人が暮らしており、現在も、約5,500の方が暮らしているそうです。

当時のお話では、昭和20年8月28日にソ連による北方領土侵略が始まり、9月4日には4島全てがソ連によって占領されました。得能氏が暮らしていた色丹島には約600人の兵士が上陸し、小学校にも5~6名の兵士がやってきたそうです。その後、ソ連に占領されることとなりますが、約半数は自ら脱出しました。しかし、海難事故にあうなど、脱出にも困難なものがあったとおっしゃっていました。また、当時は、ソ連が間違えて占領したと考えていた方もいたようで、すぐに戻ることができると考えていた方もいたようです。そのような中、島に残った約8,000人は、昭和22年9月末に樺太を経て日本へ送還されることとなります。樺太では、日本の船が迎えに来るまでの間、一度収容されることとなります。長い人で70日間を過ごした方もいたようで、大変だったことは、食料とトイレ、また、寒さだったようです。そのような大変な思いをしながら、昭和22年~23年にかけて日本へ帰ることとなります。

その後は、根室市は、国を通じて個人の墓を作り、そのお墓は、今も島に住んでいる方が守っているとのことでした。

今回の研修では、北方領土で起きた実際の状況を聞くことができました。これまでの北方領土問題に対し、現状を聞き、更に深く理解することができ、大変良い勉強であったと感じました。

